

第 41 回Zoom三水会報告

日時：2024年11月20日（水）16時～18時

テーマ：「食文化とツーリズム」

講師：野崎俊一氏

参加者（敬称略）野崎俊一 中村範子 野口幹夫 波治裕美 石塚秀雄

小関 栄 斎藤嘉璋 丸山茂樹 富沢賢治 丸山茂樹

報告内容と質疑応答：

旅と旅行の違いを皆さんどう考えますか。という問いかけで始まりました。

万葉の時代の厳しい旅から江戸時代隆盛の伊勢参り そして現代の旅行がコロナや世界の紛争による制約の状況など、そして食の喜びとの結びつきなど、さまざまな観点から人を開放し発達させる旅行について語りつくしてくださいました。

参加者全員が、冒頭の問いにそれぞれの考えを披露しました。

詳細は次ページのレジメと録画をご覧ください。

録画：前半：<https://youtu.be/9YbLd-OdvT4>

後半：<https://youtu.be/oDCFNUsTSj4>

資料 「食文化とツーリズム」

食文化とツーリズム



2024年11月
野崎俊一

目次

0. フードツーリズムの関心事

1. データで見る日本ツーリズムの現状

- 1) 訪日外国人（インバウンドツーリスト）
- 2) 日本人の国内動向
- 3) 日本人の海外動向（アウトバンドツーリスト）

2. ツーリズムの概念

3. 歴史変遷に見る旅 中世・近世編

1) 奈良時代から江戸時代中期までの旅

2) 旅の普及 江戸時代（1750年以降）東海道五十三次歌川広重の作品はカット

<https://creativepark.canon/meiga/artmap/tokaido53.html>

4. 旅の魅力とは 皆様のご意見拝聴

共に食べることの意味

1. コロナ禍で密閉、密集、密接（三密）対策
 - コロナ禍では友人・知人との外食・宴会の自粛
 - 伝統行事の中止 神と人間の共食機会の減少

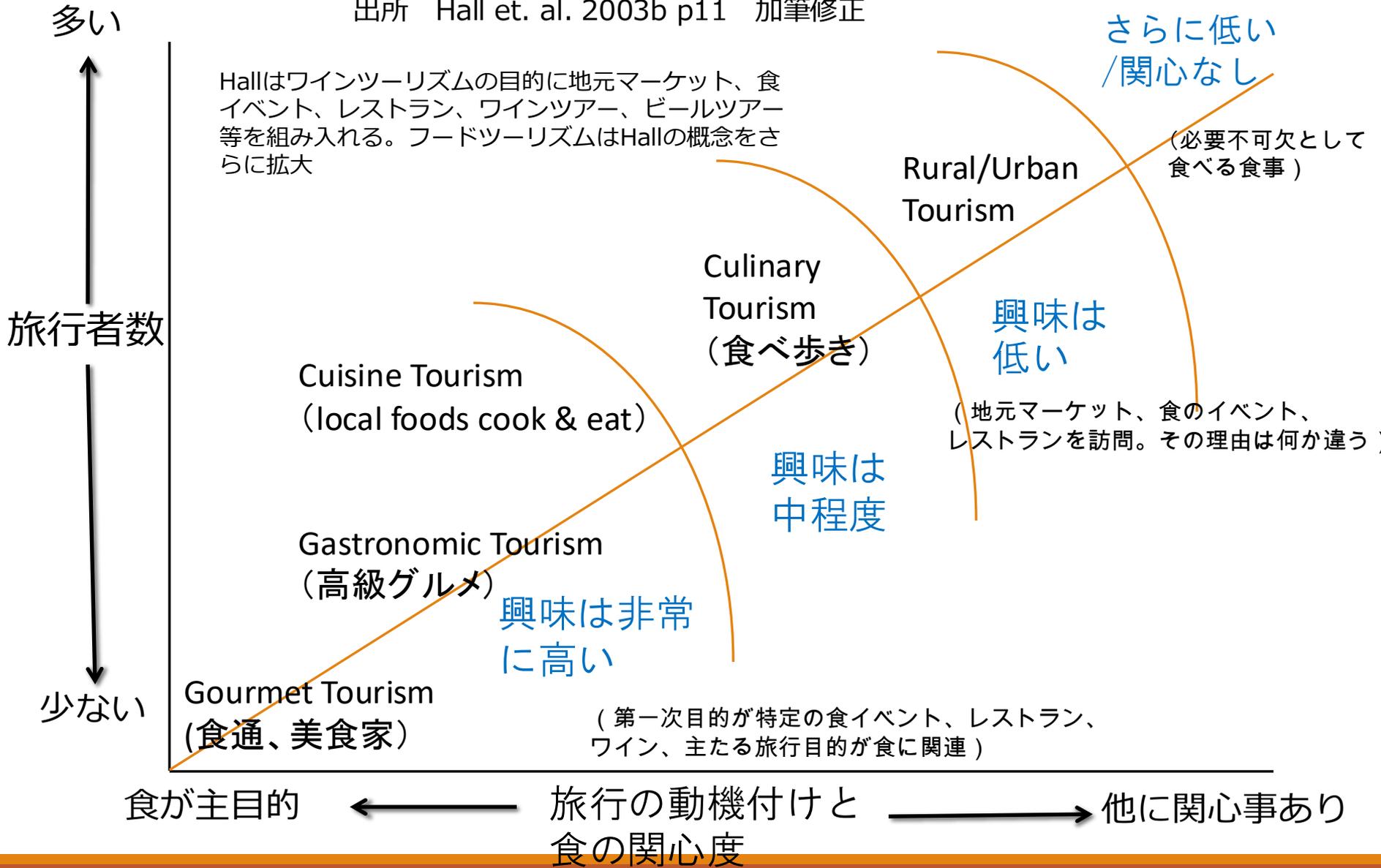


2. 2024年日常生活に戻りつつあるが・・・
3. 非日常の旅の途中で「共食」をどのようにとらえるか
→コミュニケーションによる出会いがあり、偶然性あり、開放性あり、客と料理人の関係は？
4. 家族で、外で食事をとることの意味 「共食は人間社会のみに発生」

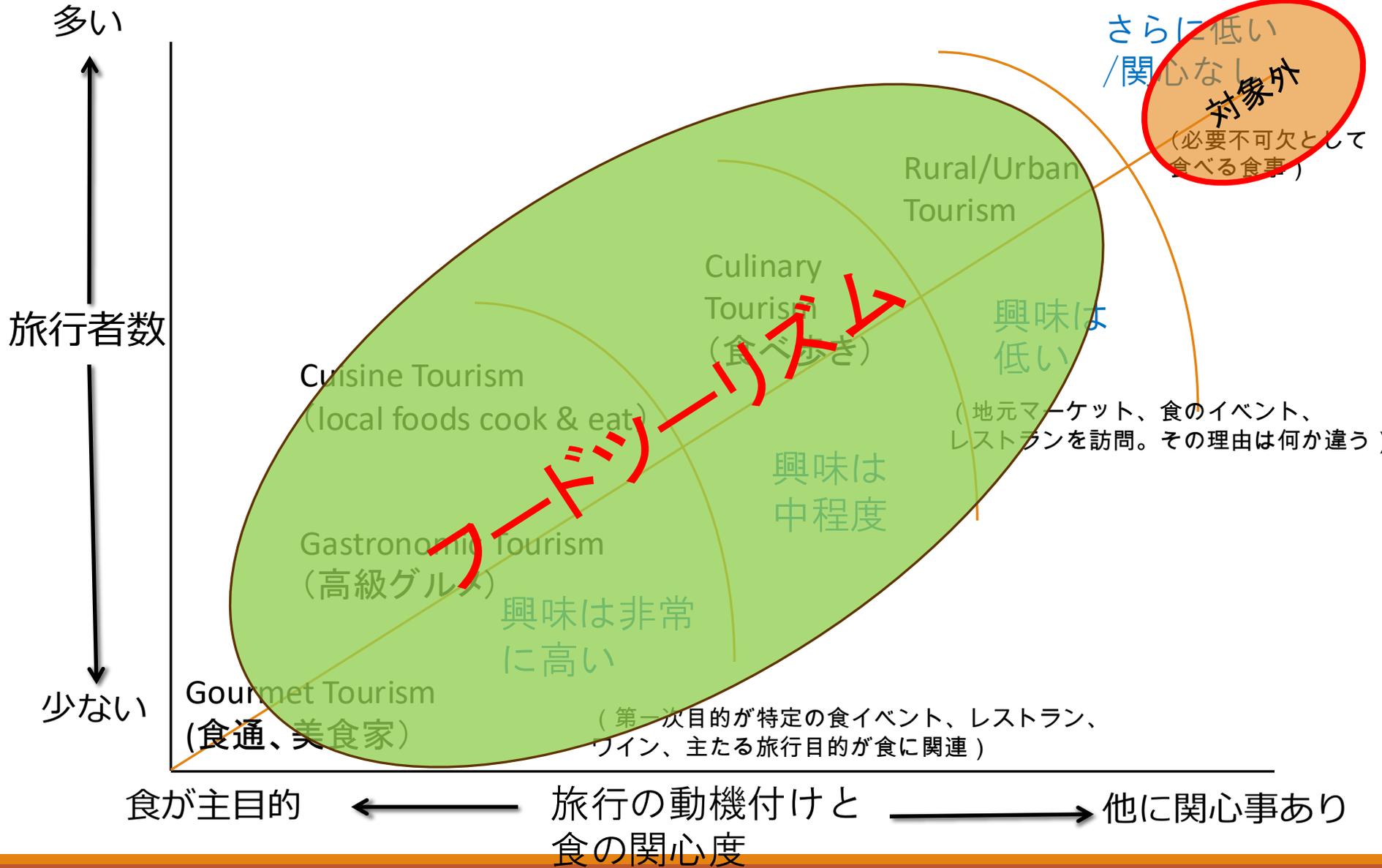
共食の資料として原田信男『「共食」の社会史』、福田育弘『ともに食べるということ』

ワインツーリズムの概念

出所 Hall et. al. 2003b p11 加筆修正



フードツーリズムの概念



旅の楽しみ—国内—

- 旅は「豪華な食事」する絶好の機会
- 若い世代ほど旅前に食事先・食事地区を決めることが多い
- 女性中心に情報収集、予約する傾向が強い
- **旅の楽しみ**第1位は世代を超えて「温泉」(64.4%) ↑、「食とグルメ」第2位(55.0%) ↓

以下、3位「自然・植物園28.1%」 ↑、4位「寺社巡り25.4%」 ↑、5位「テーマパーク20.6%」 ↓、6位「世界遺産巡り20.6%」 ↑、7位「ショッピング17.9%」 ↓、8位「鉄旅14.0%」 ↑、9位「ライブ、コンサート8.0%」 ↓、10位「スポーツ5.3%」 ↓

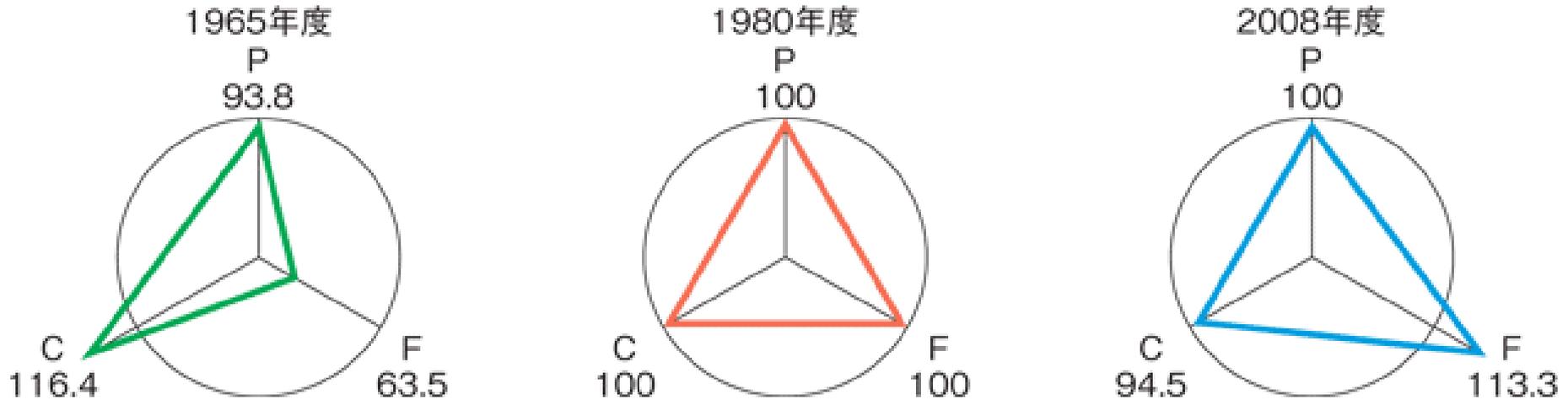
注) 20,30,40,50,60,70代別にアンケート調査。↑年配者の支持高い、↓若い世代の支持高い

出所: JTB「食と旅に関する調査」2017年

<https://www.tourism.jp/wp/wp-content/uploads/2017/04/food-and-travel-jtb-report.pdf>

P F Cエネルギー比

PFC熱量比率の推移（1980年度=100、供給熱量ベース）



資料：農林水産省「食料・農業・農村白書」

注：1) PはProtein（たんぱく質）、FはFat（脂質）、
CはCarbohydrate（炭水化物）

2) 数値は1980年度のPFC比率（P：13.0%、F：25.5%、
C：61.5%）を100とした時の指数

たんぱく質(P)、脂質(F)、炭水化物(C)のどれくらいの割合でエネルギーを摂っているかを表した数値をP F Cエネルギー比という。1980年頃が最も栄養バランスに優れていた。

出所：農林水産省 https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/zikyu_ritu/011.html

日本型食生活の崩壊

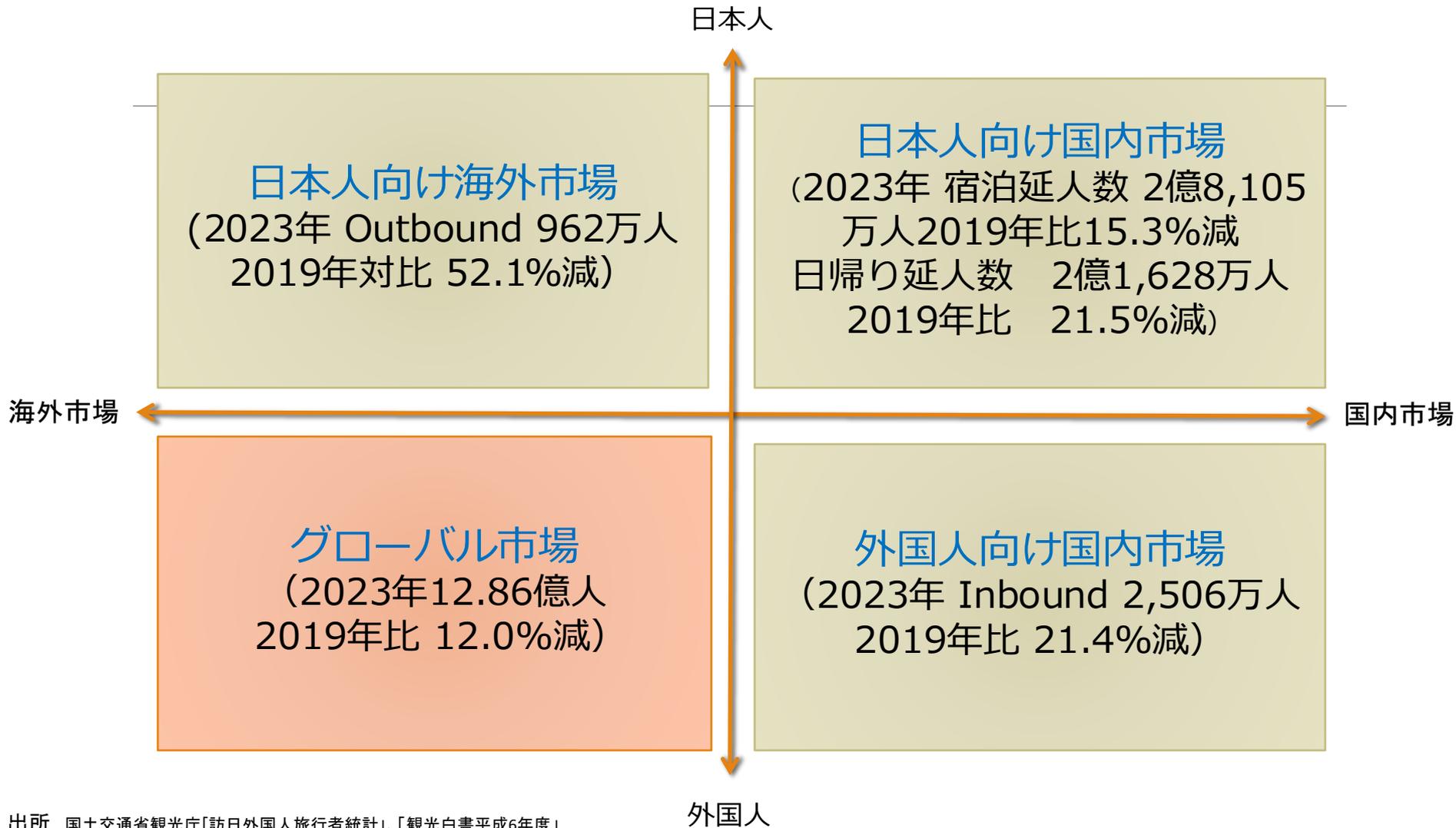
- 1980年前後、米、野菜、魚を中心に伝統的食生活＋肉、牛乳・乳製品、鶏卵、油脂、果物等が加わる。多様な食と栄養摂取の量とバランスの両面から高い評価食生活。
- その後、米等穀類の炭水化物摂取量が減少を続け、脂質摂取量が増加。野菜摂取不足で栄養バランスが崩れる。
- 現在、脂質は過剰摂取、炭水化物は不足気味。脂質と炭水化物のバランスが崩れる。
- カロリーベース食料自給率：1980年度 53%→2000年度 40%→2020年度38%
- 生産額ベース食糧自給率：1980年度77%→2000年度71%→2020年度63%（食料品国内生産額/食料国内消費仕向額）

個人的理由から フードツーリズムへ関心高い

- 自分自身の国内外での体験から地域密着型食文化の豊かさとオリジナリティの深みにはまる
- 英国と欧州でのツーリズム体験から飲食と時間の過ごし方、地産地消、調理方法、食べ方などを発見
- 京都6年間の生活を通じた日本料理、調理方法、作法、食材、四季彩も学ぶ
- Z世代に代表される現代若者の食生活と旅先での行動にギャップを感じ、日本食の継承に不安を感じる

1. データに見る ツーリズムの現状

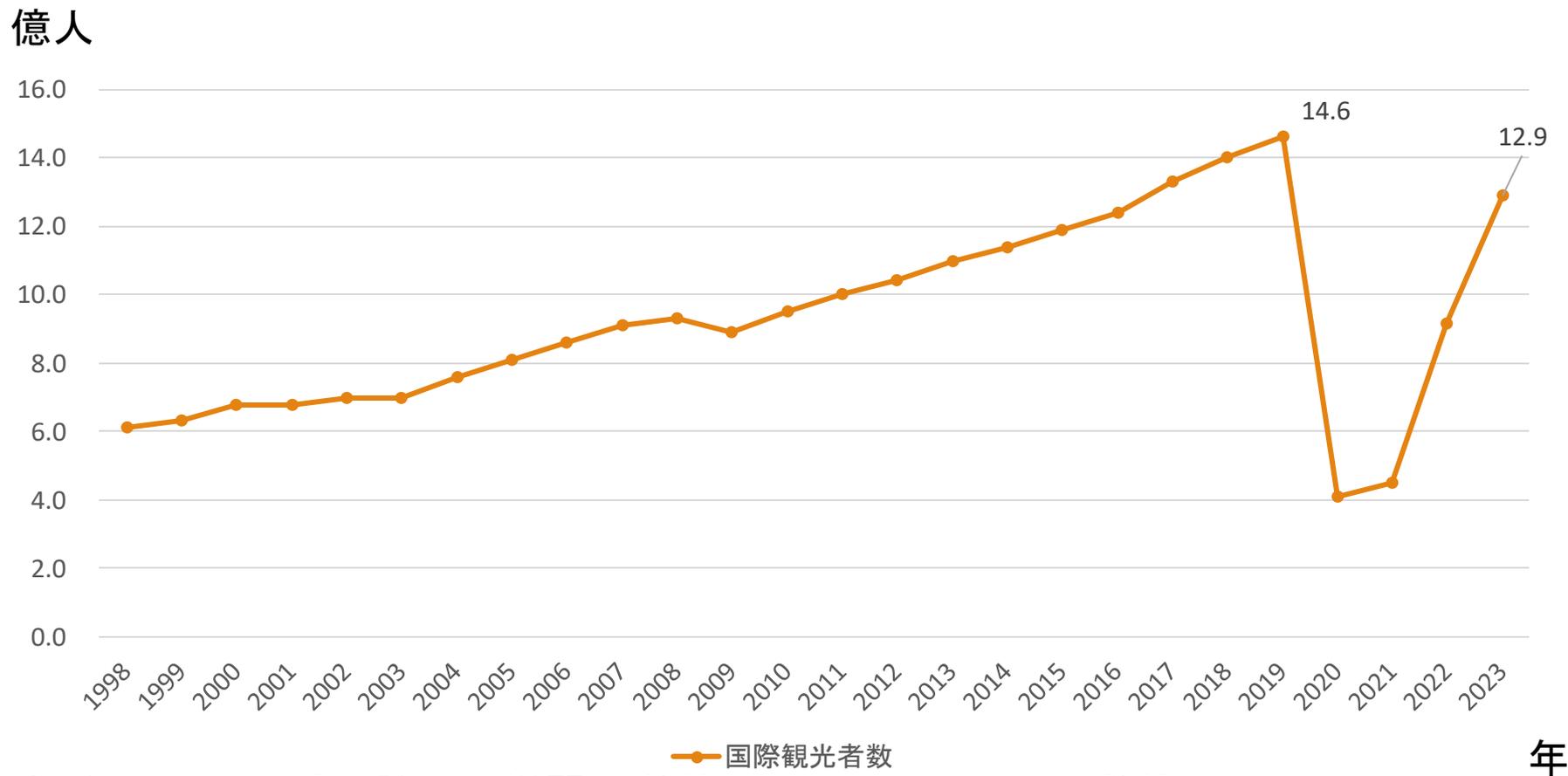
旅行対象者別観光者人数





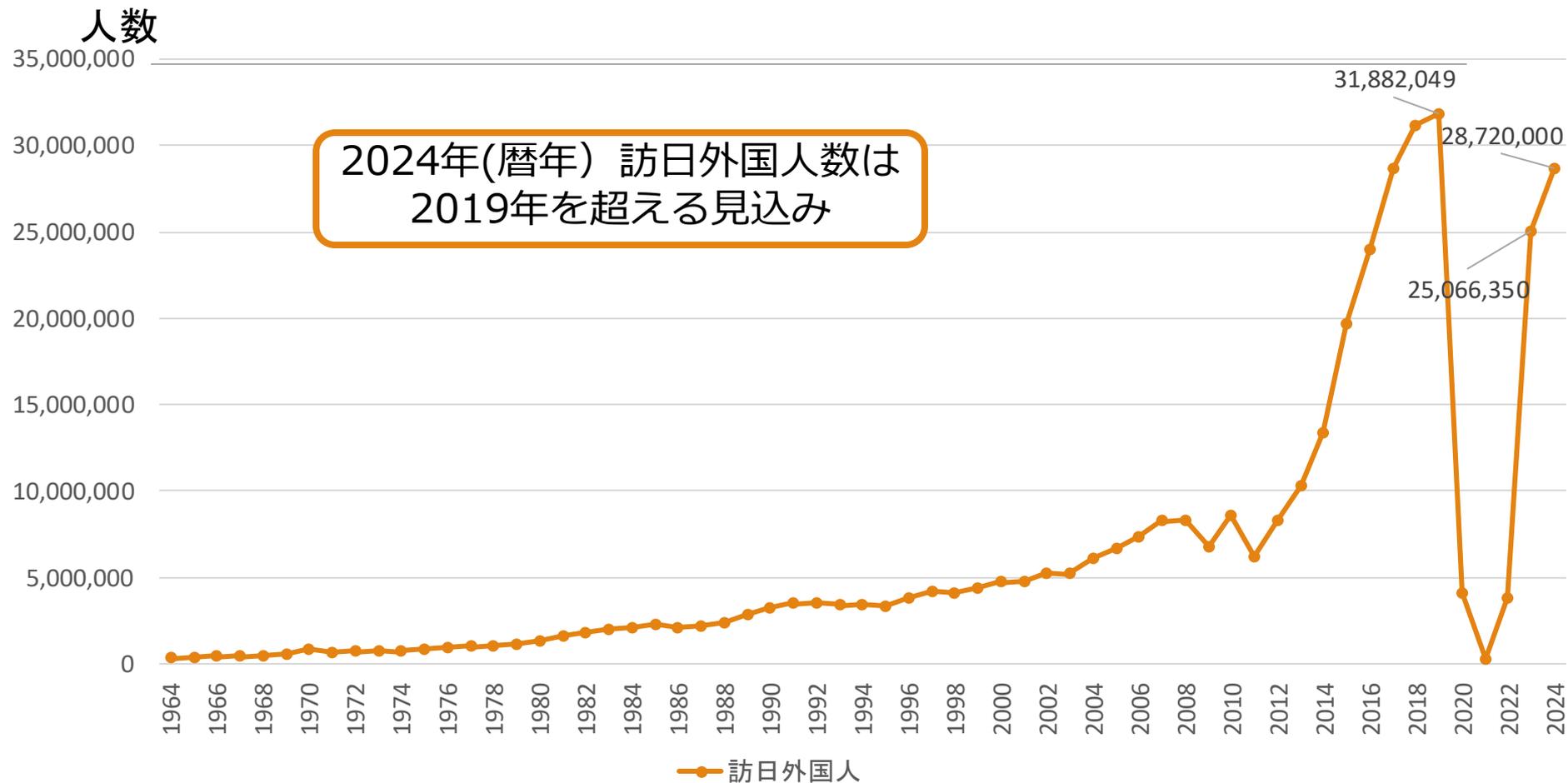
インバウンド ツアーリストの 動向

国際観光者数の推移



出所UNWTO(国連国際観光機関) 数値はOUTBOUNDのみの数値。

年別訪日外客数の推移



出所: 日本政府観光局 <https://statistics.jnto.go.jp/graph/#graph--inbound-travelers--transition> 2024年1月~9月までの見込み数値

2023-24年 インバウンドツーリストの傾向

- インバウンドツーリストに関しては2023年10月からコロナ前のツーリスト数が回復基調にある。
- 韓国、台湾、香港並びに東南アジア諸国、北アメリカ、ヨーロッパ、トルコからの観光客が増加
- 2019年以前と比較して、一人当たり滞在日数と消費金額は増加
- InstagramはじめSNSの普及・拡大による特定観光地への集中度が高い。他方、SNS上で認識されていない観光地の未訪問という二極化現象が発生
- 円安ドル高（主要通貨含む）による海外旅行者の日本在住の割安感が増すこと

See all of the [Reader's Choice Awards winners here](#).

Top Countries in the World

1. **Japan** 94.79
2. **Portugal** 92.69
3. **Turkey** 92.4
4. **Italy** 92.16
5. **Spain** 92.14
6. **Thailand** 92.09
7. **Vietnam** 91.91
8. **New Zealand** 91.67
9. **Ireland** 91.63
10. **Greece** 91.53
11. **Croatia** 91.23
12. **Norway** 91.15
13. **Switzerland** 91.14
14. **Canada** 90.85
15. **France** 90.58
16. **Austria** 90.54
17. **India** 90.38
18. **Iceland** 90.33
19. **Germany** 89.53
20. **United Kingdom** 89.26

大手旅行雑誌『コンデナスト・トラベラー』が2024年10月1日(火)に発表した読者投票ランキング「リーダーズ・チョイス・アワード」の米国版、および英国版において「世界で最も魅力的な国」として、日本が2年連続で第1位に選出

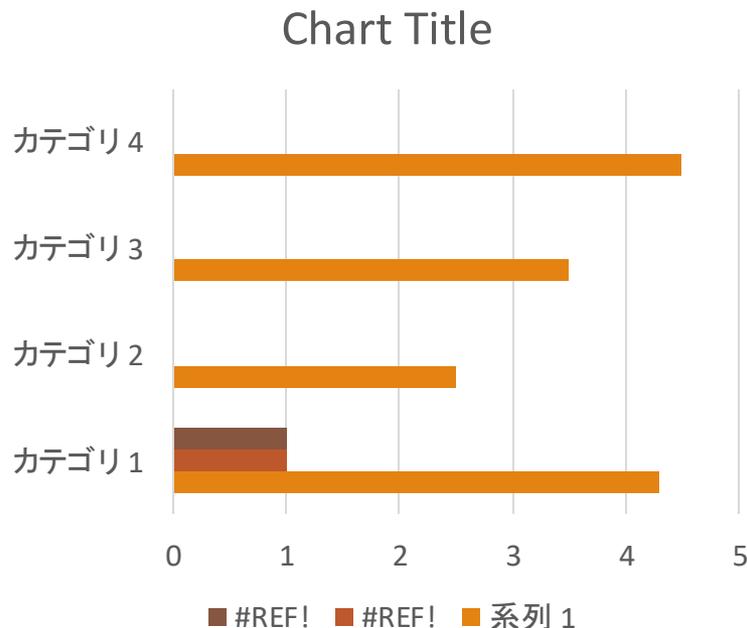
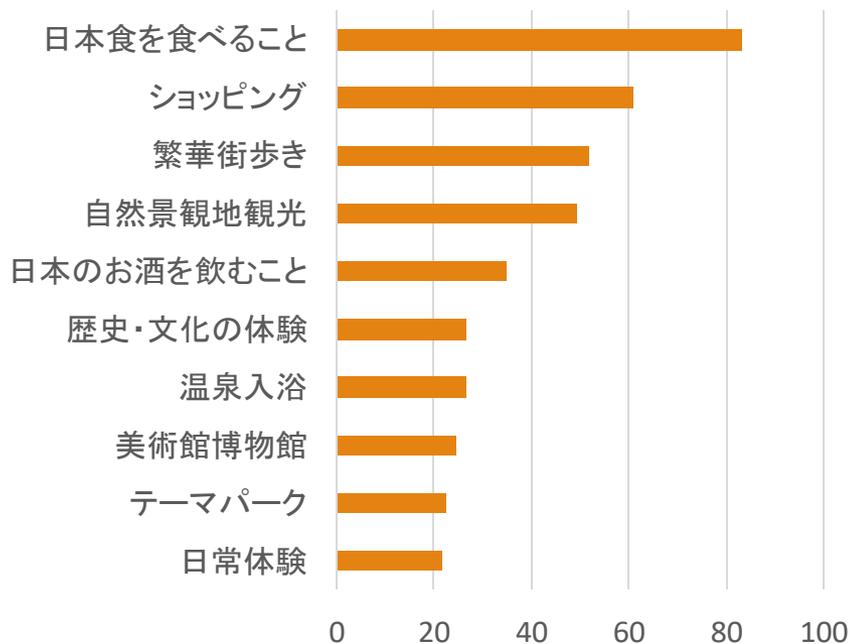
コンデナスト・トラベラー

<https://www.cntraveler.com/story/top-countries-in-the-world>

訪日外国人の訪問期待

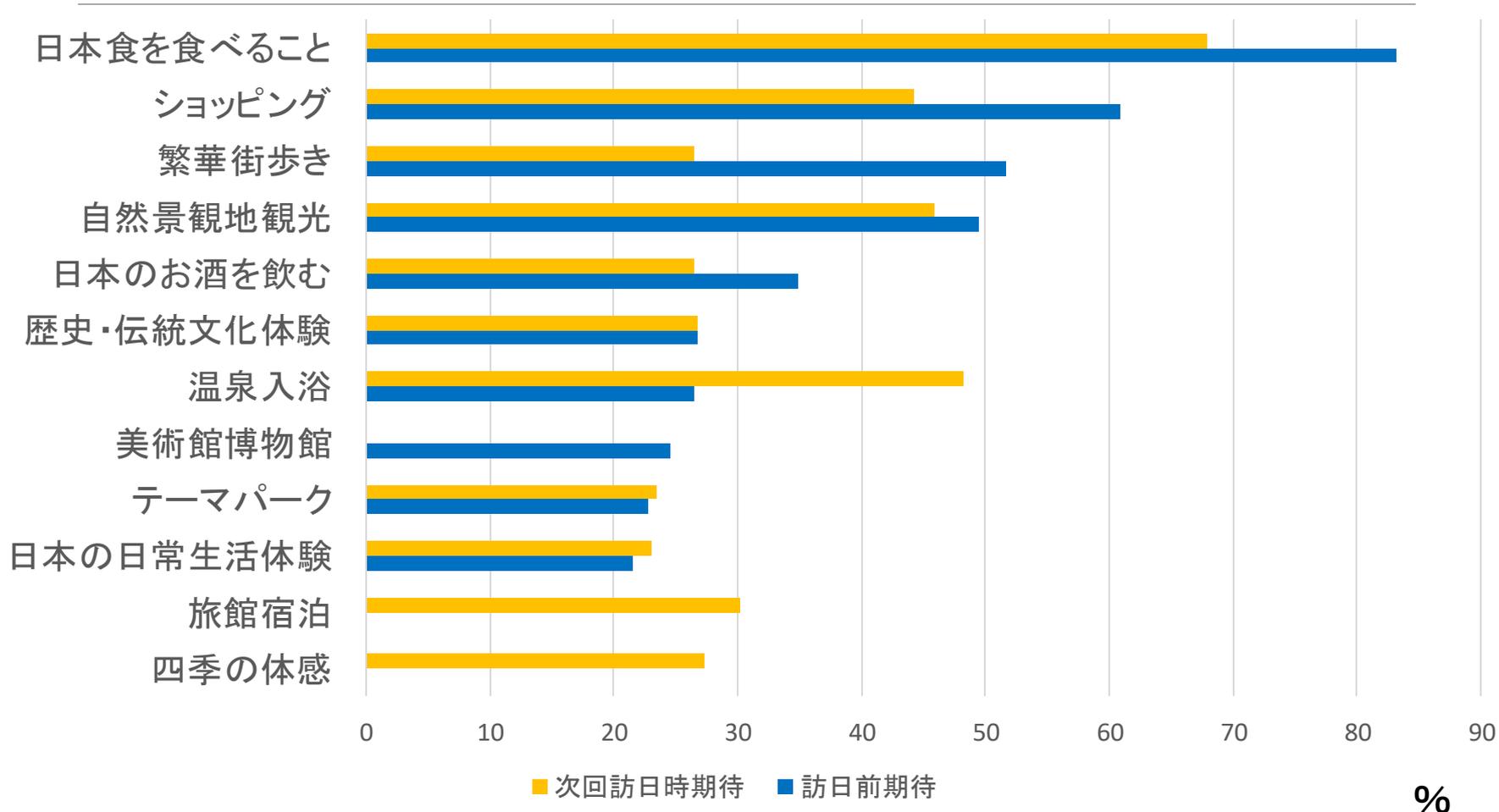
訪日前に期待すること

次回訪日旅行でしたいこと



訪日前と後の旅行期待先の差異

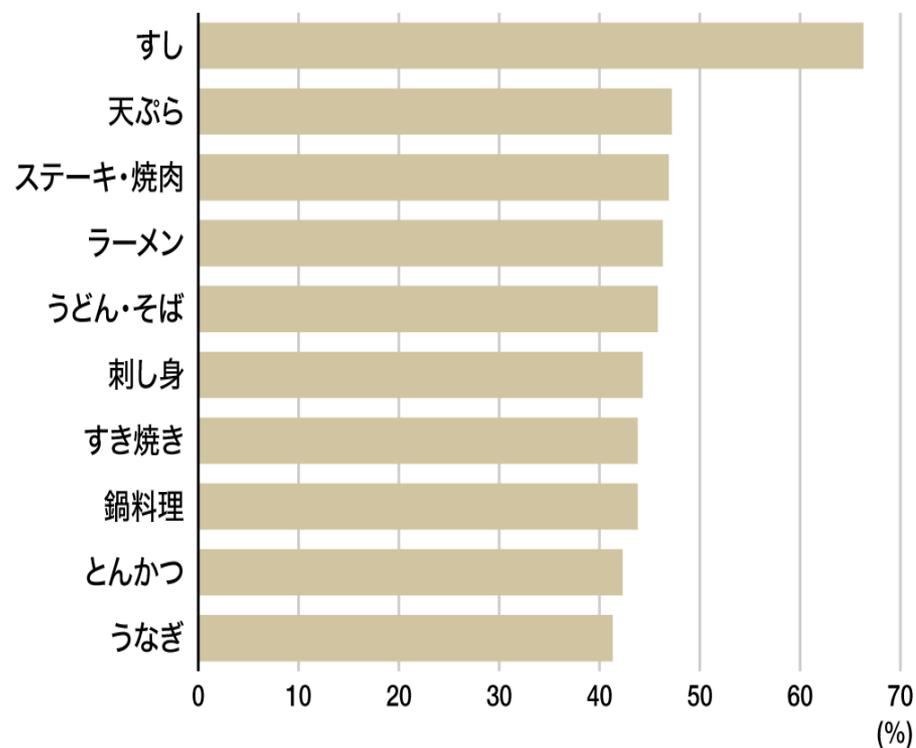
出所:観光庁「訪日外国人消費動向調査 2023年年次報告書」



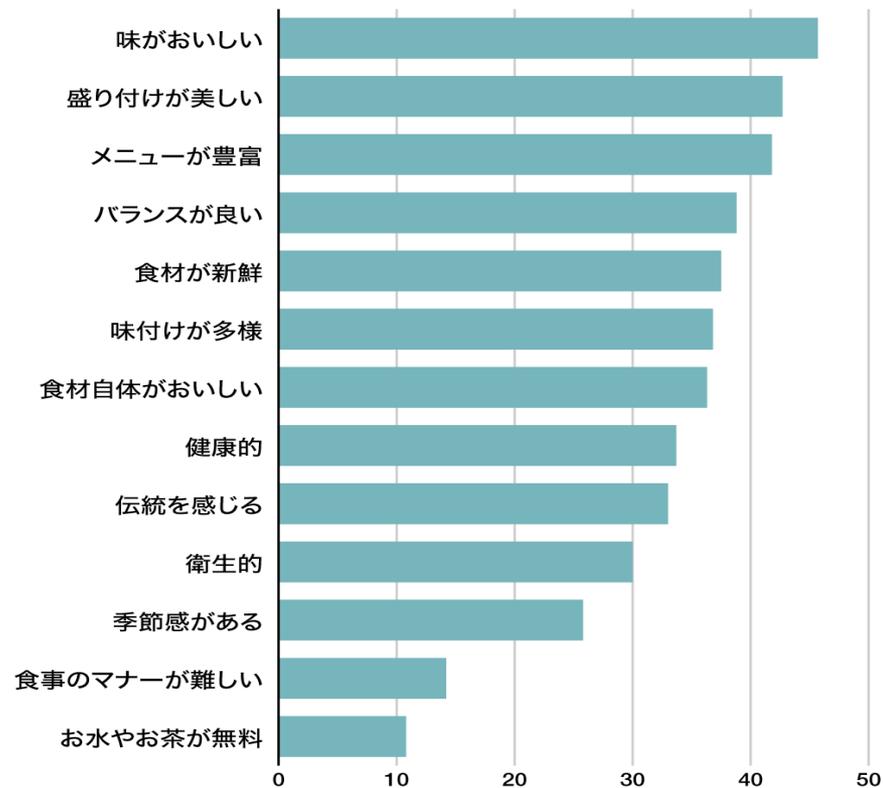
%

日本食を楽しみにする 訪日外国人 農林中金調査

滞在時に食べた日本料理

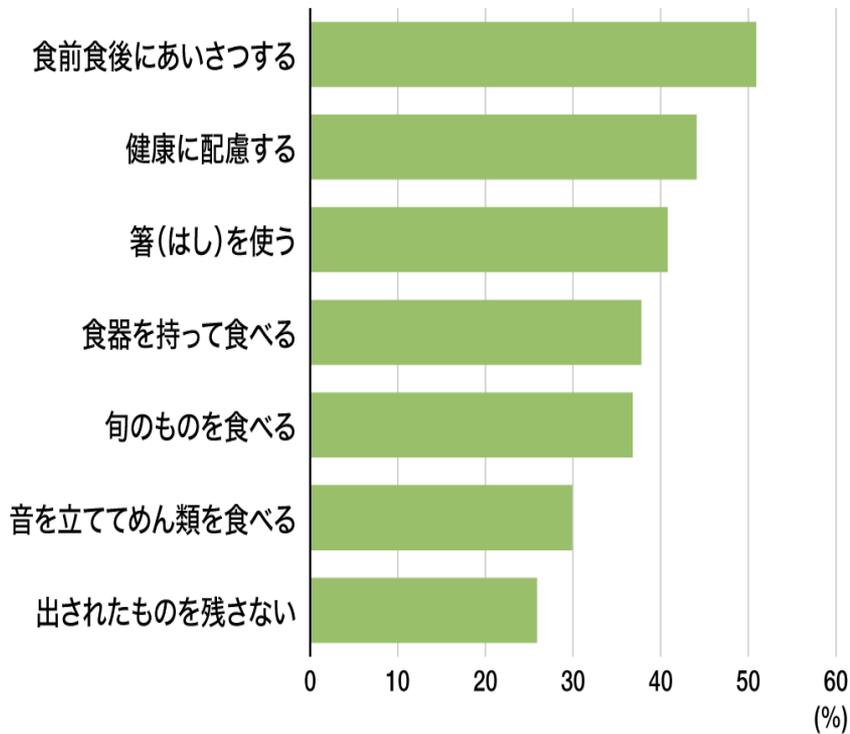


日本の食について驚いたこと・感心したこと

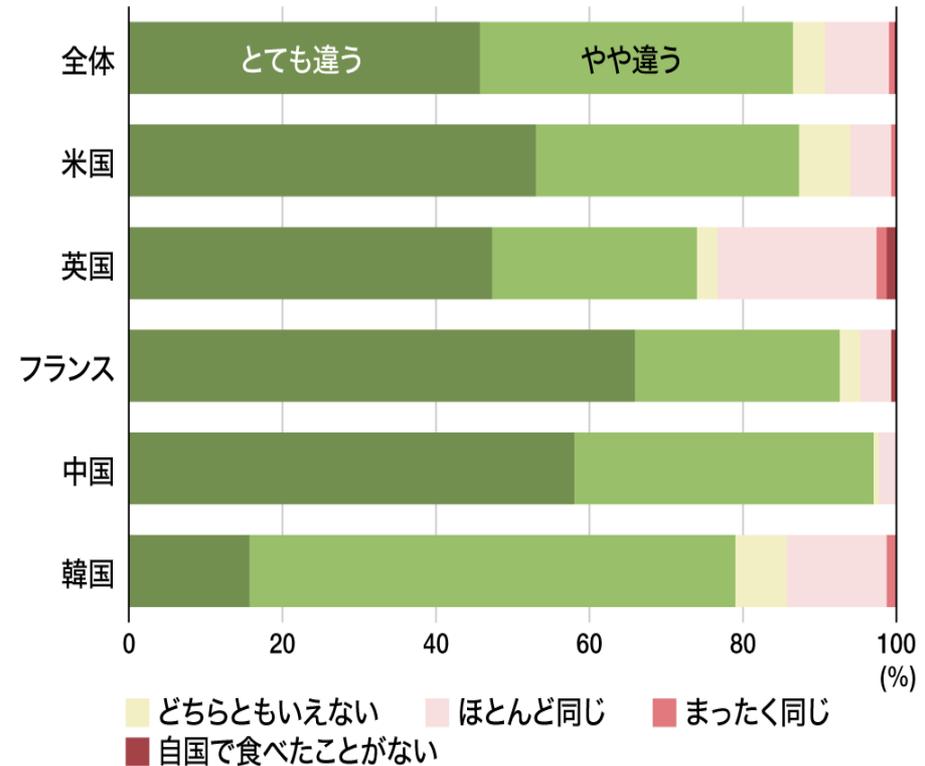


旅先でしか味わえない本物

日本の食事・マナーで印象に残ったこと



自国の日本食と日本で食べた日本食は違った？



訪日外国人の日本食感想

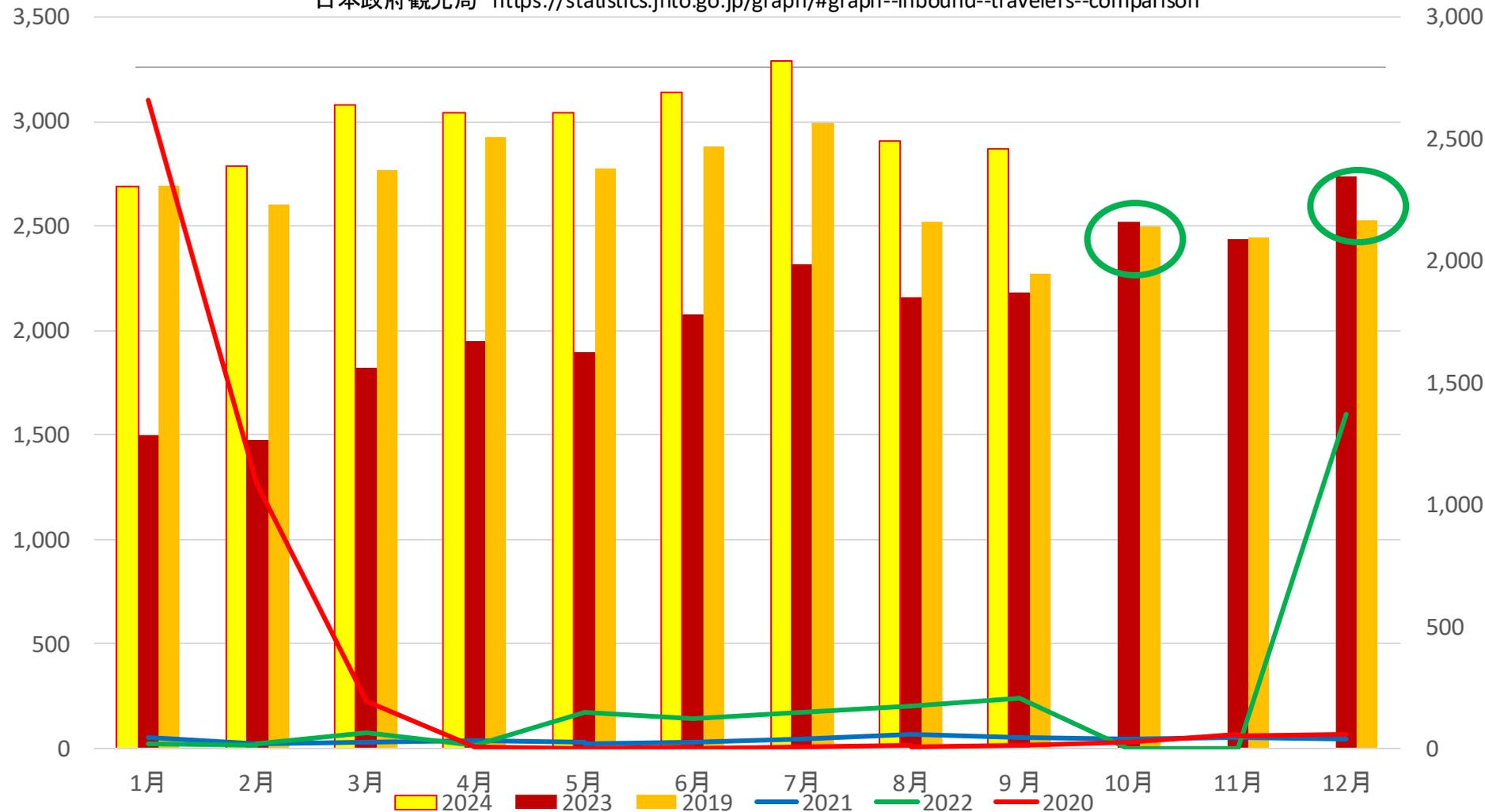
- 食事・中食の圧倒的人気は 寿司。理由の第1位味がおいしい(45.7%)、2位盛り付けが美しい(42.7%)、3位メニューが豊富(41.8%)
- 2位メニューを国別にリストアップ。米国(49.0%)と中国(38.3%)がステーキ・焼肉。イギリスは天ぷらと鍋料理(各42.0%)。フランスはラーメンと焼き鳥(各43.9%)、韓国はラーメン(43.8%)など。
- 自国の日本食より日本が“おいしい”(86.2%)と感じている
- 日本で食べた日本食は自国の日本食と“プラスの意味で違った”(86.7%)
- 日本食を食べた場所は、レストラン(74.4%)、屋台(42.9%)、コンビニエンスストア(39.7%)、スーパーマーケット(35.3%)。
- 日本ならではの食材はわさび(49.0%)、初めて食べた食材1位は松茸(19.0%)、おいしかった食材1位は生魚(13.9%)
- 印象に残った食事マナーは、“食前食後に挨拶をする”(50.9%)

月次別訪日外客数 (単位千人)

2020. 21, 22年
訪日外客数
折れ線グラフ

2019. 23, 24年
訪日外客数 棒グラフ

日本政府観光局 <https://statistics.jnto.go.jp/graph/#graph--inbound--travelers--comparison>



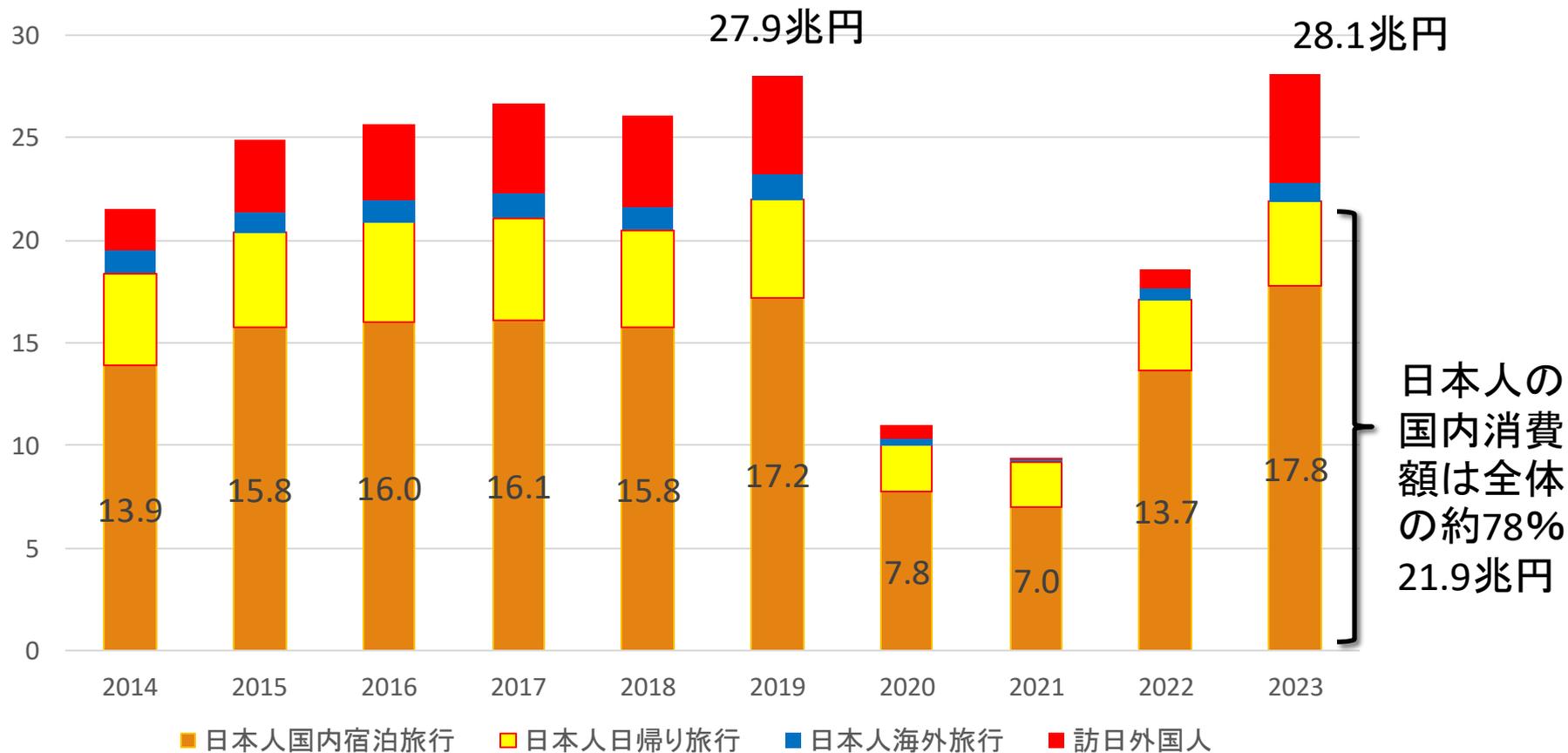


日本人対象 の国内観光

国内旅行観光消費額の推移

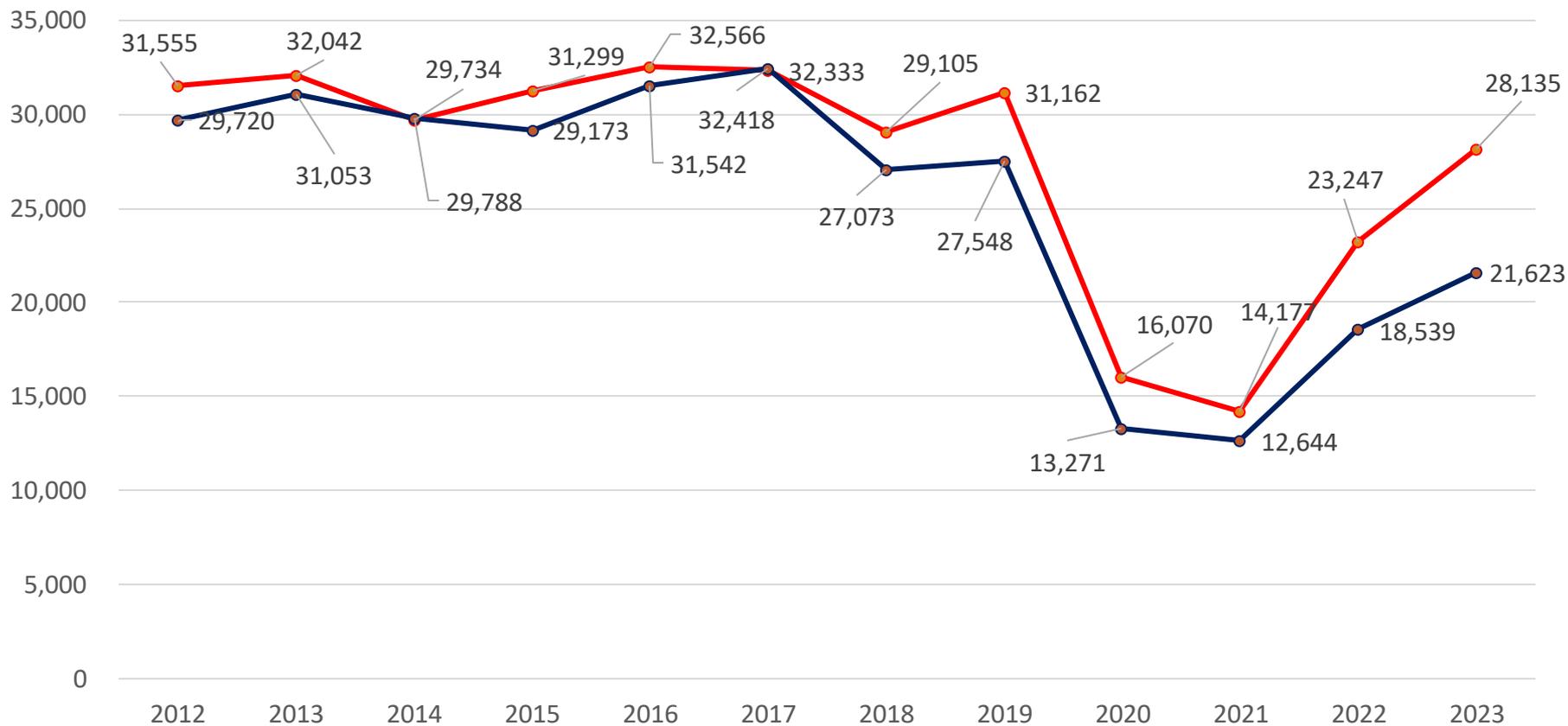
-日本人と訪日外国人-

兆円



国内宿泊旅行と日帰り旅行 延べ人数の推移

万人



出所 日本政府観光局資料

● 宿泊旅行 ● 日帰り旅行

2023年日本人の国内旅行

- 日本人国内延べ旅行者数は4億9,758 万人(2019年比15.2%減、2022年比 19.1%増)
 - 宿泊旅行は2億8,135 万人(2019年比9.7%減、2022年比21.0%増)
 - 日帰り旅行は2億1,623 万人(2019年比21.5%減、2022年比16.6%増)
- 日本人国内旅行の1人1回平均旅行単価は44,034 円/人(2019年比17.9%増、2022年比7.2%増)
 - 宿泊旅行は63,253 円/人(2019年比 14.9%増、2022年比7.1%増)
 - 日帰り旅行は19,027円/人(2019年比9.8%増、2022年比 2.7%増)
 - 1人1回当たり旅行単価には、参加費、交通費、宿泊費、飲食費、買物代、娯楽等サービス費等が含まれている。

JFEXの開催

幕張メッセ11月27日～29日

https://www.walkerplus.com/event_list/ar0313/eg0117/

<https://www.jfex.jp/>

2024年地域ブランド調査

- 株式会社ブランド総合研究所が2006年から毎年行う調査。
- 1,000の市区町村と47都道府県で、全国約3万人の回答を収集。
- 調査項目は、魅力度、認知度、情報接触度、各地域のイメージ、情報接触経路、地域コンテンツの認知、観光意欲度、居住意欲度、製品の購入意欲度、地域資源の評価など、全89項目。

順位		都道府県名	魅力度(点)	
2024	2023		2024	2023
1	1	北海道	70.8	72.4
2	2	京都府	55.6	56.6
3	3	沖縄県	49.8	52.7
4	4	東京都	48.3	49.0
5	7	神奈川県	42.6	39.4
6	6	福岡県	42.0	40.4
7	5	大阪府	38.3	43.3
8	13	長野県	34.9	31.9
9	14	静岡県	34.6	30.6
10	9	石川県	33.9	33.4
11	14	兵庫県	33.3	30.6
12	10	長崎県	32.8	32.3
13	11	宮城県	32.3	32.2
14	8	奈良県	31.1	37.2
15	12	千葉県	30.1	32.1
16	17	広島県	30.0	26.5
17	19	鹿児島県	29.3	26.1
18	27	秋田県	28.1	22.4
19	22	富山県	26.7	23.8
20	16	愛知県	26.5	29.1
21	24	三重県	25.9	23.2
22	20	青森県	25.8	25.2
23	25	大分県	25.4	23.1
24	23	宮崎県	24.5	23.7

順位		都道府県名	魅力度(点)	
2024	2023		2024	2023
25	21	山梨県	24.3	24.5
26	18	熊本県	24.1	26.3
26	28	香川県	24.1	22.0
28	34	愛媛県	23.3	20.0
29	30	和歌山県	22.9	21.3
30	26	新潟県	22.5	23.0
31	38	福井県	21.9	18.4
32	35	岡山県	21.6	19.1
33	31	山形県	21.4	21.1
34	39	岐阜県	21.2	18.3
35	29	岩手県	20.9	21.7
36	32	高知県	20.5	20.9
37	33	福島県	20.2	20.7
38	37	島根県	19.4	18.5
39	39	栃木県	19.2	18.3
40	36	滋賀県	19.1	19.0
41	44	群馬県	18.6	16.3
42	42	徳島県	18.0	16.6
43	42	山口県	17.3	16.6
44	41	鳥取県	16.3	17.3
45	47	茨城県	16.0	13.7
46	45	埼玉県	15.2	15.8
47	46	佐賀県	14.9	13.8
47都道府県平均			28.0	27.2

国内旅行目的別最新ランキング

	トラベルコ 2024年秋旅調査	温泉地 ゆこゆこ調査	歴史的町並み 古旅調査	自然豊かさ 旅ポケット調査
第1位	札幌/北海道	熱海温泉	知覧武家屋敷	別海水平線/北海道
第2位	USJ/大阪	湯河原温泉	石見銀山大森	龍泉洞/岩手
第3位	博多・福岡	下呂温泉	高山/岐阜	三佛寺投入堂/鳥取
第4位	TDR/千葉	鬼怒川温泉	奈良井宿/長野	竹田城跡/兵庫
第5位	宮古島・沖永良部島	伊東温泉	妻籠宿/長野	端島/長崎
第6位	那覇・首里	塩原温泉	高野山/和歌山	高千穂峡/宮崎
第7位	石垣島	定山溪温泉	本当超笠島/丸亀	尾瀬/4県
第8位	金沢/石川	草津温泉	白川郷/岐阜	にこ淵/高知
第9位	京都市内	石和温泉	御手洗/呉	鋸山日本寺/千葉
第10位	大阪市内/大阪	別府温泉	関宿/亀山	おにゅう峠/滋賀

トラベルコ https://www.tour.ne.jp/j_special/ranking/

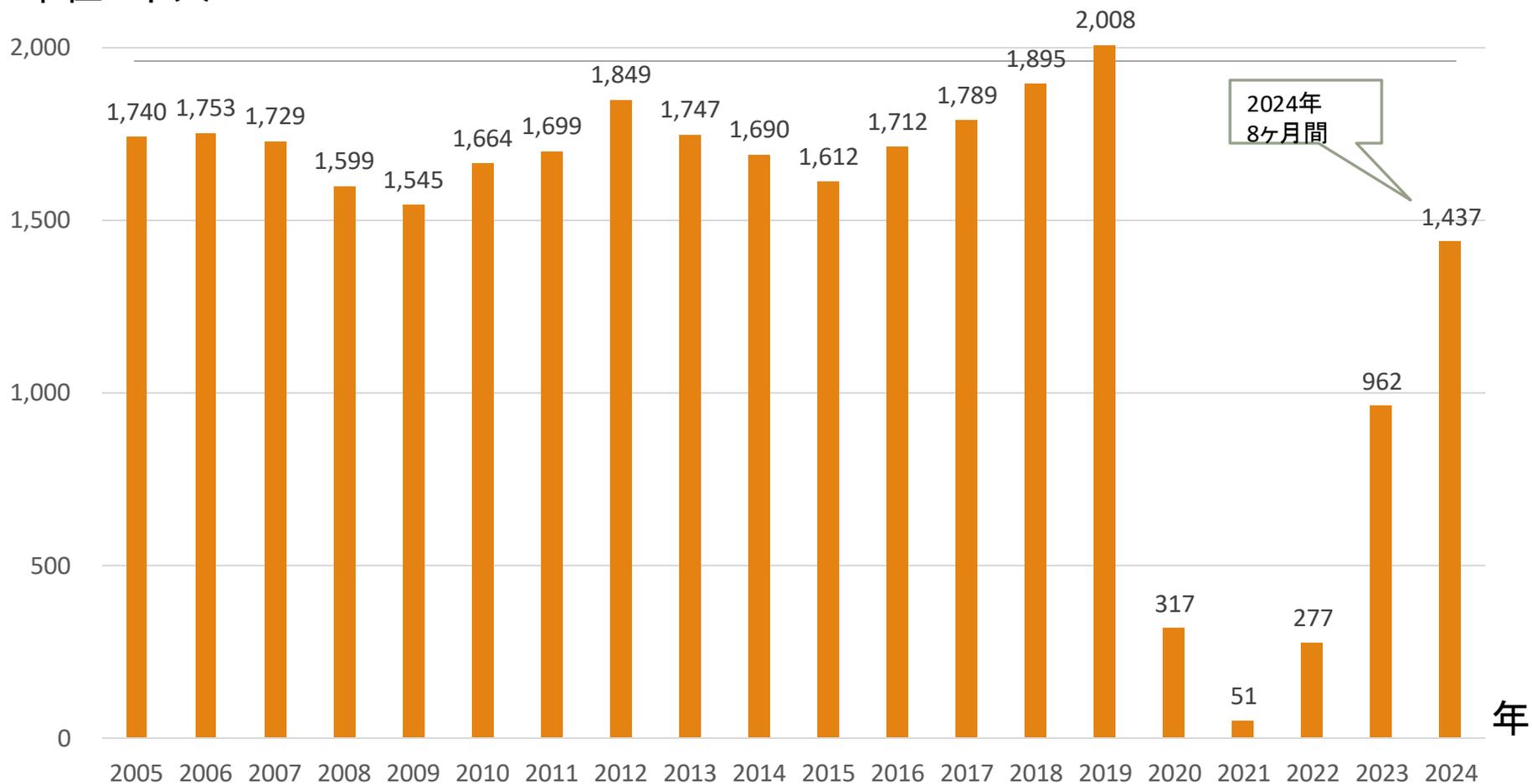
ゆこゆこ https://www.tour.ne.jp/j_special/ranking/

古旅 <https://www.furutabi.com/ranking/>

旅ポケット <https://www.tabikobo.com/tabi-pocket/japan/article54831.html>

日本人の海外出国者数推移

単位 千人



出所 日本政府観光局資料 2024年は1月~8月までの8カ月間 <https://statistics.jnto.go.jp/graph/#graph--inbound--travelers--comparison>

なぜ日本人の海外旅行は 増えないのか？

- 旅行費用（ホテル、航空券、現地食事代等）が想像以上に高い（円安の影響、旅行先の物価上昇、日本のデフレ社会と旅行先の収入格差？）
- 行きたい旅行先の直行便減少、乗り換え含め時間がかかる・不便
- 旅行会社のプランの減少、友だちなどを誘っても断られることが多い
- 海外旅行へ行かなくても国内で十分と思うようになってきた（娯楽の多様化、忙しい、治安への不安など）
- パスポート保有率の低下 23.8%（2019年）⇒17.0%（2023年）
- 日本人留学者数の減少 58,162人（2022年度） コロナ前の半数
（115,146人 2018年度 毎年増加傾向にあった） 日本人Z世代の海外志向が弱くなっている

2. ツーリズムの概念

古来の旅と現代の旅行

古来の旅の意味

- 君命、上位者など命令による旅
- 家職や交易としての旅
- 全責任を認識し自らの意思で出る旅
- travailen. Travelen : 旅行が最初に使用されたのは14世紀 (Merriam-Webster 辞書) 意味は「苦しめる、労働する、努力する、旅する」

現代の旅行 = 観光の意味

- 自己の自由裁量にゆだねられた旅行
- 自発的、随意的旅行
- 営利を目的としない (伝統的な旅の場合)

原田順子、十和田朗 (2011) 『観光の新しい潮流と地域』 放送大学教育振興会
を加筆修正

観光とTourismの違い

- 観光は、中国『易経（えききょう）』紀元前9世紀の一節「観国之光，利用賓于王」国の光(現象、優れた物事・人物)を見聞して、国内には王の賓客（ブレン）となる人物を重用し、国の発展に寄与。
- 観光は、歴史・文化・風俗・景観などの「国の光」を見聞する/学ぶという意味。
- 大正時代に、Tourism を観光と訳した。
- WTOのTourism定義：「旅行者は少なくとも24時間以上最長1年未満に、居住地を離れて再び居住地に戻る旅人」目的は、レクリエーション、ホリディ、スポーツ、ビジネス、会合、会議、研究、友人、親戚訪問、保養、宗教伝道など。観光客とビジネス客の区別は必要ではない。Workationも含む

3. 歴史変遷に 見る旅 中世近世編

日本における旅の始まり

- **大和朝廷以降君命、上位者など命令による旅**：兵役、公務（国司、防衛、外交、司法など）税を納める
- **家職や交易としての旅**：行商や商売、物流・保管、金融、通信、修行僧など
- **自ら好んで行く旅**：お参り（平安時代熊野詣、室町時代お伊勢参り、江戸時代から四国八十八ヶ所と大山詣など）と温泉療法（限定的）
- **江戸時代中期～後期「自ら好んで行く旅」の普及**：国の安定化、農業経済から商業経済への移行、五街道と宿場町の整備、通貨の普及、参詣講の結社組織（江戸時代版旅行代理業）の発達、道中記（ガイドブック）、徒歩旅ブーム

奈良時代から
江戸時代中期
までの旅

古来旅の始まり

- 弥生時代、古墳時代、飛鳥時代、奈良時代は定着農耕民
- 万葉集（7-8世紀）、旅とは生死に関わる重大事で、生涯家族に会えないこともある。若倭部身麻呂(わかやまとべのみまろ)：「我が妻はいたく恋ひらし、飲む水に影さへ見えてよに忘れず」旅は防衛・戦争、外交・一部交易
- 646年 五畿七道を設置(未整備) 五畿とは、大和・山城・摂津・河内・和泉の畿内五国。七道とは、東海道・東山道・北陸道・山陰道・山陽道・南海道・西海道
- 718年養老律令の制定によって「諸道に駅置くべくは、三十里ごとに一駅を置け」とある。諸道とは「七道」。三十里とは今日の16km位の距離に該当する。道は道路と言うより地名の意味合いが強かった。

近世に至る旅の潮流

- 平安末期から南北朝、室町時代に伊勢講又は明神講による平民の参詣者を部分的に組織化が始まる
- 応仁の乱による公家・文化人の地方流寓(個人旅の先駆)、貴族・高級文化が都から地方に伝達
- 江戸時代の大名参勤交代(定期的集団旅行の先駆)
- 江戸時代：農書による生産・加工、三大都市の食文化と食生活、料理本に見る料理、日記類に見る食生活
- 日常世間から開放され、三大都市、道中記、紀行文、名所名物、観光色が強まる

旅の普及
江戸時代
(1750年以降)

熊野詣でからお伊勢参りへ

- 自らの意思に基づく「旅」は信仰上から始まる。天皇と皇族による熊野御幸は平安時代末期に始まり、鎌倉時代には地方武士が配下の住民も同行させることが一般化。「蟻の熊野詣」といわれるほど大人数庶民もの熊野三山を目指す。
- 平安時代の伊勢神宮は天皇のほかは祈禱を禁じた「私幣禁断」。鎌倉時代、源頼朝が御厨（みくりや）や御園（みその）を寄進して以降、諸国武士も頼朝に倣う。伊勢神宮の権禰官（ごんねぎ）が各地に御師として派遣。庶民の伊勢信仰による祈りも増加。
- 南北朝時代から室町時代に、伊勢信仰が庶民の間に普及。足利義満以降の歴代将軍が参宮し、参宮は武士が中心であった。16世紀半ば伊勢国内の関所が撤廃され、畿内の庶民が参宮できるようになる。
- 織田信長は関所を廃止するも、豊臣秀吉は山田奉行の設置、太閤検地によって庶民の旅はも制約を受ける。江戸時代、庶民による「お伊勢参り」が普及。伊勢神宮は天照大御神を祀り、国民の総民神と言われた。参詣は庶民のあこがれから義務であるという観念が普遍する。
- 1802年から09年に出版された十返舎一九「東海道中膝栗毛」が多く読まれ、お伊勢参りの人気に全国に広めた。

江戸時代：石高制から貨幣経済へ

- 徳川幕府は幕藩体制の財政基盤は米本位制度。石高制は藩の規模から武士の給与まで、全て米の生産能力で指標化。各領主は自家消費分を除いた米を販売し、その代金で様々物を購入。商取引の促進が貨幣経済を発達させ、貨幣経済の充実が市場経済を発達させた。
- 大坂米市場では信用取り引きと先物取り引きが成立。江戸では文政（1818年頃）から、日本橋本町/蛸殻町で米の先物取り引きが始まる。
- 江戸初期は米本位経済（農業経済）と貨幣経済（市場経済）が混合。時代が進むと貨幣経済の比率が増加。余剰生産物の増加、貨幣流通量の増加によって信用経済（手形決済）も増加。菱垣廻船（灘の清酒）と樽廻船（蝦夷の昆布とニシン・鮭）の物流量も増加。江戸、大坂、蝦夷地等の為替取引が常用化。為替業務や貸し付け業務を行う両替商が信用経済の中核として台頭。大坂商人が商業の実権を握るなど市場経済への移行。
- 有力な両替商は大名に大口の貸し付け。商人が国家の経済を支配する実態に、幕府も商人の存在を無視できなくなる。

河端瑞賢による航路の開拓

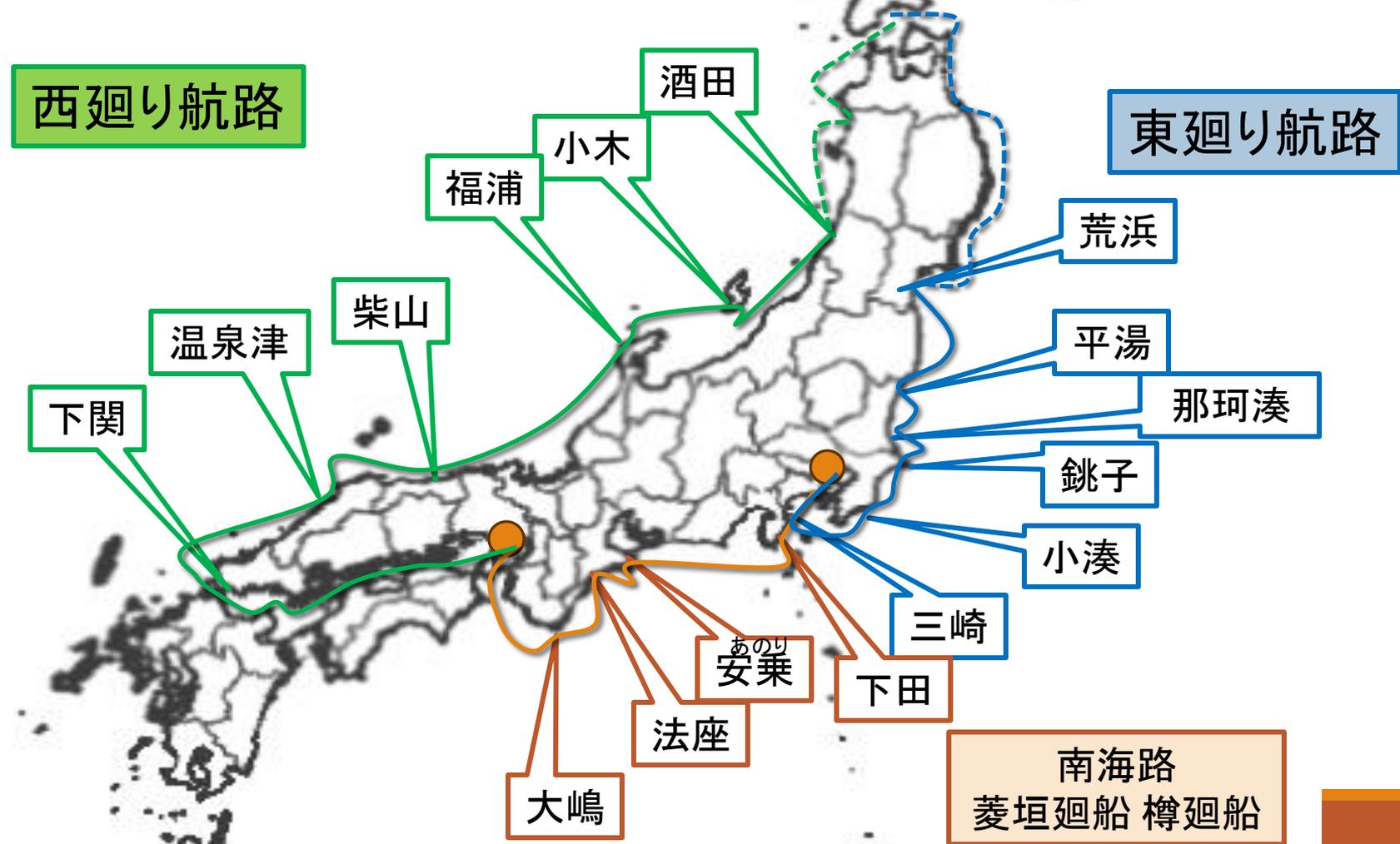
起源は年貢米の輸送

東回り航路 1672年

西回り航路 1672年

西廻り航路

東廻り航路



南海路
菱垣廻船 樽廻船

気仙丸 千石船(せんごくぶね)150t

木造船
甲板は揚板式
帆は一つ
天測儀禁止

戦国船気仙丸 <https://ofunatocci.or.jp/kesenmaru.jp/>

大船渡市復元 全長18m、幅5.8m、帆柱17mの帆船で、帆は実に畳85枚分

朱印船 1601~1635年

日本とベトナム 日越外交関係樹立45周年プロジェクト
https://www.archives.go.jp/event/jp_vn45/ch02.html

- 徳川幕府による公認会が帰取引と外交。
- 長崎出港して長崎帰港
- 安南(現ハノイ)、マニラ、カンボジア、シャム(タイ)、マラッカ(マレーシア)など東南アジアとの貿易。
- 輸出品：銀、銅、硫黄、刀等
- 輸入品：香道、伽羅(きゃら)、沈香(強壯、鎮静に効果のある薬)
- 取引先：中国人、ポルトガル人、スペイン人、オランダ人、イギリス人

注) 日本の技術とジャンク船・ガレオン船の技術やデザインを融合した末次船、荒木船という独自の帆船が普及。船は500~750tあり、乗船者は200~250名程度。

江戸時代に旅が普及した社会背景

- 参勤交代による5街道の道と宿場町の整備、治安の向上
- 海運ルートの開拓による大量年貢米と諸国産物の迅速かつ低コスト輸送、情報流大
- 農業経済から市場経済への移行による庶民含めた生活水準の向上と時間と金銭の余裕
- 医療（湯治）と信仰（社寺詣で）を目的とした旅を各藩は承認：例えば大山詣、富士登拝、善光寺参り、金毘羅さん、成田講など
- 講制度と安全な団体旅行＋地方名産を講中への返礼品
- 両替屋にて手形を持ち、現金化
- 旅行記の出版：東海道中膝栗毛、都名所図会、伊勢参宮名所図会、道中記、紀行文、料理本

伊勢講（参宮講・明神講）の特徴

- 伊勢信仰による信者の集まり。相互扶助で一生に一度の「伊勢参り+a」
- 農民の代参は秋の収穫から苗の植え付け前までの農閑期
- 出発の日と帰る日は講中が集まって祝いを行う
- 御師（おんし：参拝者の世話人）と参加者による村人心配り
- 講別に指定された宿へ道中宿泊（指定旅館制度開始）
- 社寺への参拝での食事：一汁三菜（5器1膳）一汁二菜（4器1膳）
- 江戸中期人口1800万人に対して年間50万人伊勢詣（2.7%）
- 1830年人口3000万人に対して年間440万人伊勢詣（16.7%）
- 日平均歩く平均距離 女・子供 8里、大人12里

おかげ参り

- 伊勢神宮に参拝する庶民の旅盛んとなる
- おかげ参りと称する参詣が大流行(60年に1度 3回発生)
 - 1650年は記録が少ないこと、「抜け参り」として対象外
 - 1705年 (宝永2年) 参拝者数330~370万人 4月~5月
 - 1771年 (明和8年) 参拝者数200万人 4月~7月
 - 1830年 (文政13年) 参拝者数460万人 3月~8月 (全人口3228万人)
- 参拝の種類
 - 講・寄進による参拝 (町、村ごとに集団参詣 出身地の地名を記した笠をかぶり「おかげ」と記した旗やひしゃくを持つ集団)
 - ほどこし(施行)を前提とした女・子供、奉公人の参拝が多い。伊勢神社に向かう街道筋では食事を提供
 - 個人

江戸時代の庶民第一人気：お伊勢参り

□移動費24日(男子1日10里歩く) 出費平均合計(2両2分金)

□予備日7-10日間 2分金 = 8朱金

□お伊勢参りお賽銭 1分金

□伊勢滞在費(3~5泊) 1~2分金

□お土産、昼食代 1分金 合計3両3分金~4両

- にぎり寿司一貫、風呂代 8文
- 番傘、ろうそく 200文
- 浮世絵 32文
- 大福餅 4文

4進法：1両 = 4分 = 16朱 = 4000文 江戸時代に初期、中期、後期、幕末によって通貨の価値はかわる

江戸時代の通貨概略

- 米の単位 一石 = 10斗 = 100升 = 1000合
- 江戸時代の大人1日平均3合食す、1年間一石食すと想定
- 日本銀行金融研究所博物館調べ (インフレ1両価値は下がる)
 - 1両 = 4分 = 16朱 = 4000文 基本形(4進法)
 - 江戸初期1両10万円台、中～後期 3～5万円、幕末頃 3～4千円
 - 換算基準が対象によって異なる 1両 \div 4万円、大工の手間賃 1両 \div 30～40万円
 - 換算事例：四畳半2間長屋年間家賃2両 \div 26万円 家族3人米代2両、調味料・炭火代10～12両、蕎麦1杯16文 \div 520円、床屋30文 \div 1000円
 - 金は江戸を中心に東国、銀は大坂中心に西国

旅の魅力とは？
